

第2回竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会

発 言 要 旨

平成26年10月

竹 富 町
企画財政課

発言要旨

委員会の論点について

上妻委員長

- ・庁舎の移転、建て替えをすることは、ゴールではなく、あくまでもプロセス。
- ・この会議では、新しい竹富町役場のあり方、あるいは目指すべき町政の姿、特に住民の皆様への行政サービスのあり方、この問題を9つの有人島を前提に考える、目指すべきビジョンを考えながら協議するという認識である。
- ・島嶼型の地域構造を受け止めながら、どうしたらよりよい行政サービスを提供していけるか、その際に目指すべき役場のあり方は何なのかを検討する。
- ・庁舎という施設・建物としてではなくて、本庁舎、支所、出張所などを結び、ネットワークとして全体像を描く。行政施設の再編を念頭に、行政と町民との関わりを基本に、新竹富町役場が目指すべき姿を考える。そのためのステップやロードマップを考えていくというのが、この委員会に与えられたミッションと考える。

上里委員

- ・竹富町の経済・産業を考えた場合、人の流れ、物の流れの2つから整理したほうがよい。
- ・物の流れとは生活物資、必需品、建設資材などであり、現状は石垣港を拠点にしている。
- ・物資の流れについては、ある程度変更を加えられる可能性は十分にあると思っている。それであれば、拠点が変わっていくのだから、東部を拠点とするようなものの流れをつくれれば、東部に竹富町庁舎があって、それを中心として西表、町全体が活性化していく。そういう仕組みづくりが必要になってくる。
- ・庁舎を移したときに、合わせて拠点となりうる場所から場所へと、それぞれの島々を結ぶ路線がどうしても必要である。
- ・この新庁舎を拠点化して、その拠点と石垣港を結びつけておけば、町全体のネットワークがつくられるのではないか。
- ・船がネットワークを作り上げた後に、採算ベースに合うかどうか、上手く行かず、すぐに撤回するのであれば意味がない。
- ・そういうところを、しっかりと形にすることが庁舎の移転と密接にかかわっており、竹富町そのものの活性化につながる。

アンケート調査の方法について

事務局

- ・2か月間で132件のアンケートしか回収できず、調査方法について、反省させられた。
- ・来庁者の目的把握については追加調査実施を検討している。

・一日当たりの総来庁者数はいくらなのかが実際わからないことがあり、把握できるような調査方法を検討、実施した上で結果の報告をしていきたい。

上妻委員長

・母数が少ない。132件のうち、県外を除くと町民は100ちょっと。なかなか難しいとは思いますが工夫、改善をすること。一日にどれぐらいの人が実際に足を運んでいるか、そして、どういうニーズがあるかということ把握したいので、ぜひ続けて実施して頂きたい。
・来庁者に回答していただくのではなく、窓口業務として対応した役場の担当者が何の要件で来たかを記録すればよい。

池間副委員長

・来庁目的の調査結果は課別の集計になっているが、受付件数、相談件数であれば、もっと多いのではないかと。
・職員が対応する際に記録すれば、より密度の高いデータが取れるのではないかと。

アンケート調査の結果について

上妻委員長

・本庁舎でなければできないこと、出張所でもできること、このあたりの具体的な内容も気になるところ。
・本庁舎の利用が出張所利用の割合を超えているのは竹富だけだが、これは出張所や郵便局を利用者のほうが時間に余裕のある方が多かったとか、好意的に回答してくれただけかもしれない。母数を上げることを含め、データを正確なものにしていく必要がある。

上里委員

・本庁舎の利用者の割合と、出張所を利用する人の割合がほぼ同程度なのは、竹富とか、西表西部とか、波照間など。その他の島々では、出張所を利用している人が多いと感じる。

竹富町新庁舎のあり方等ビジョン検討調査について

事務局

・調査の趣旨は各項目について調査・研究を行い、こういった調査結果を委員会に示し、庁舎がどうあるべきかという判断材料を提供することである。
・基礎的なデータを提供し、新庁舎建設のビジョンということに関して活かしていきたい。

上妻委員長

・行政サービス向上に資するネットワークの構築に関する事例等調査では、島々を抱え、複数の出張所や支所のある自治体の現地調査を行う。島嶼型の地域構造の自治体で、行政

サービスの維持・改善を図るためにどのような取り組みがなされているかを学び、竹富町に活かすという趣旨。

- ・ニーズ調査、事例調査を踏まえ、新庁舎、支所などの機能分担、規模、その他諸要件に係る検討調査につなげていく。そのための基礎情報、参考情報、事例などを提示していくことがこの検討調査の趣旨。

各出張所のあり方、行政サービスの提供について

川満町長

- ・過去の説明会で最も多かった要望は、経済の中心地は今後とも石垣市で変わらないだろうから、石垣に支所は必ず作って欲しい、機能を充実させてほしいというものである。
- ・各島々の住民の要望としては、自分たちの島々にある出張所、支所にしっかり職員を配置して行政サービスの向上を目指してほしいということである。

上妻委員長

- ・庁舎移転後も行政サービスの質を落とさないための具体的な方法として、各出張所の機能拡充という重要な課題がある。
- ・機械的に新庁舎にあらゆる業務を移してしまうと、かえって不便になる、行政サービスが落ちるといった懸念もある。
- ・支所を石垣に残し、そこに配置する機能についても利便性が落ちないように洗い出すことも必要である。
- ・本庁舎以外のサービス向上が非常に重要である。

大浜委員

- ・出張所の充実については、機能を進めるとかワンストップサービスを進めるとか、実際には運用上の対応でこと足りるところがあると見受けられる。
- ・発行物はITでなんでもできる。どのようなサービスが必要で、どのようなサービスを各島々の出張所に充実させていくのか、ということを体系づけて議論してはどうか。

今井委員

- ・書類的なことはネットをつなげれば全部できる。各島々の方と面談しなければいけない事態でも、今ではテレビ会議が充実しているので、出張所に行けば本庁とつなぐこともできる。
- ・これから高齢者が増加することを考えると、わざわざ石垣まで動かなくてよいシステムづくりというのも大事なのではないかと考えられる。
- ・ITをうまく活用すれば、役場を移してよかったという部分も出てくる。

赤嶺委員

- ・利便性の問題が大事。
- ・インターネット利用については、歳を取るとネットを使えない人もいるので、活用できる人材の育成や、役場にそういった職員を置くだとか、対策が必要。(赤嶺委員)

庁舎移転のビジョンについて

大浜委員

- ・経済面においては、物流も観光の誘導性においても石垣が中心であることに今後変わりはない中で、なぜ庁舎を移すのかというと、新しく移してまちづくりをしようということである。
- ・庁舎を移転する場合、石垣の支所にはこれまでと同じくらいの機能、各種必要な手続きを支所としてしっかり残さざるを得ない。
- ・今の本庁舎機能を竹富町に移すのではなくて、何をどうするのかということと、拠点の町を創ることはわけて考える必要がある。
- ・ブロードバンドの環境も整ってくると、実は通信で出来ることは多く、ファックスでも通信でも、各島でも必要な書類は取れる。
- ・西表に庁舎を物理的に移すことのイメージづくりをもっとしっかりして欲しい。

三木委員

- ・役場を移すことによって行政サービスは当然としてまちづくりのサービスや行政活動が盛んになるなど、まちづくりのビジョンを示していくことが賛同を得ることにつながると思う。
- ・島々の人たちに利便性だとか行政サービス以外の面でもよくなるということを示していければと思う。
- ・町の人口について、今は横ばいで安定しているようだが、長期的には減っており、役場の移転を考えている間にどんどん人口が減ってしまって、町役場移移転どころではなくなってしまうのか。
- ・百何十人と職員が働いている町役場を持つてくることの経済効果、波及効果があり、人口減少にどう歯止めをかけるかという視点をこの問題の中に入れていないと、目の前のことだけで終わってしまう。
- ・行政サービスを低下させないのは当然のことであって、それプラスアルファ、竹富町役場の移転を契機に、竹富町がこのように変わるよと明示しないと、庁舎移転に反対している人達も、なかなか納得してくれない。

土屋委員

- ・職員が家族で移れば教育や医療の体制も変わる。職員や町民が生活するうえですぐ気に

なるところの回答があまりこれまでの説明会では示されてないと感じた。

- ・それらを全体的に考えたときに自然環境のバランスがどうなるのか、西表島としてよいのかという懸案がでてくる。
- ・具体的な部分を総合的に勘案して長期的なビジョンとして総合計画を作るのが良いのではないか。

今井委員

- ・庁舎の移転だけではなくて、まちづくり。
- ・人口がどんどん減っていき、高齢化していくというときに、例えばキャッチコピー、若い人たちがたくさん働いて暮らす町だとか、珍しい島だとか、それで人口を増やすとか、離島がこれだけ動いているんだ、という今までにない、新たなまちづくりのビジョンを持つべきだ。
- ・高齢者はネットが使えないという意見があるがそこにこそ雇用が生まれる。例えば、出張所に内地から若い人を呼んで、出張所で働ける、結婚して子供を産む。
- ・そういう夢のようなことを語らないと、夢も持たないし、もっとそういったところにも焦点を当てたほうが良いと思う。

上妻委員長

- ・行政サービスの維持向上、庁舎移転に伴う新しいまちづくり、人口減少問題を見据えた地域活性化の展望、こういった話をごっちゃにせず、議論を区分することが必要。
- ・まちづくりに関しては、都市機能が石垣に集積している地域構造の中で、現実的な可能性を鑑みたくえで考えられること、庁舎移転を機に新しいまちづくりを考えることが必要。

海上ネットワークの構築について

川満町長

- ・本庁舎を西表で作る場合は、石垣島の支所も利用しながら本庁舎も利用するということになると思うが、海上ネットワーク構築の要望が多い。

赤嶺委員

- ・交通の場合は石垣では観光客数が伸びており交通網がしっかりしていれば、西表に拠点を置いても不便とは感じない。
- ・運賃を下げると利便性にも通じ、使う人も増える。これら交通網の問題を考慮すればそんなに不便ではないと思う。

防災機能について

赤嶺委員

- ・防災の問題は全国的に3.11以降に大きく取り上げられるようになったが、南海トラフ法が成立し、各公共施設は全て高いところに置いたほうがよいとなっている。
- ・いろいろ利害関係もあると思うが、司令塔は絶対安全な場所でないといけない。移転候補地の高さは10mだが、果たしてこれでよいのか。
- ・防災面も、大きく捉えて議論したほうが良いのではないか。

上妻委員長

- ・災害対策本部としての新庁舎には、安全性と利便性のトレードオフがある。安全性を重視すれば海拔はより高いほうが望ましい。しかし、港から近いほうが利便性は高い。
 - ・平常時と非常時という分け方もできる。
 - ・Wi-Fiの利用環境が整備され、観光振興に役立っているが、これは非常時、災害発生時には災害発生情報の伝達等に有効に活用すべきもの。
- 併せて、町民だけでなく、これだけたくさん来ている観光客にも災害発生時等の情報を提供することが望まれる。
- ・庁舎移転に伴い、災害対策本部として新庁舎が想定されるが、移転先のまちづくりだけでなく、島全体を見据えた安心・安全のまちづくりを検討する必要がある。

次回以降の検討課題について

三木委員

- ・庁舎移転に伴う新たなビジョンというのはこの委員会で作るのか、それとも町の議会などで作るのか。私たちは町役場移転に関する問題だけで、ビジョンづくりはそれを超える大きなテーマだと思う。

上妻委員長

- ・ビジョンの策定次第はまだ決まってないが、ビジョンは町で作るもの。この委員会は、あるべきビジョンを念頭に置いて議論する。
- ・次回の検討課題は、必ずしも行政サービス論に限定されない。ただ、アンケート調査や事例調査等を通じて、なんらかの行政施設の再編案を検討し、示していくプロセスも必要。それによって具体性が増し、必要条件や十分条件が出てくる。
- ・今後のまちづくりについては、なかなかぼんと出せるものではない面がある。・委員会は2～3時間で時間は限られるため、事務局が個別に委員を訪問し、まちづくりに関するご意見やご提案を頂ければ建設的で効果的な議論ができると思う。

上里委員

- ・新たなビジョンの中に庁舎の在り方が含まれる、というイメージでよいのか。

・この庁舎のあり方委員会は、委員会の中で検討したことが全体的なビジョンの方にも反映されていく、そうすると全体的な事業の中でのあり方についてさらに検討が必要である、という位置づけ。

土屋委員

・新庁舎のあり方等ビジョン検討業務、とあるが、もっとも重要なのは新庁舎の在り方だと理解できる。それよりもっと上のレベルのものを考えて、その傘下でこの新庁舎のあり方を検討する委員会がある。

上妻委員長

・庁舎移転はゴールではなくプロセス。
・プロセスの中で、新庁舎だけではなく、全体のネットワークを含めて、こう良くしていくんだという全体像が求められている。その中の一コマとして庁舎移転がある。